

市民間での交流 市民使節団が基隆市を訪問

基隆市と本市との友好交流協定締結1周年を記念して「八代市民使節団」(市民や中村博生市長ら63人)を結成し昨年11月14日～17日に台湾を訪れました。使節団はくまもと県南フードバレーフェアIN台湾基隆市に参加し、オープニングセレモニーでは同フェアに訪れた現地の人たちと「時の流れに身をまかせ」を日本語と中国語でそれぞれ歌い、市民レベルの交流に会場が一体となりました。

本年3月25日には基隆市の林右昌市長をはじめとする約40人の訪問団が本市を訪れ、また、26日には台湾からの観光客約3,500人を乗せた基隆港発着のクルーズ船が4月から供用開始予定のクルーズ船専用岸壁に寄港予定です。



▲八代市民使節団の皆さん



▲着々と工事が進む八代港(1月10日現在) 手前がクルーズ船専用岸壁



▲基隆市政府訪問

世界とつながる八代港



▲昨年11月15日、基隆市政府で友好交流協定書のレプリカを手にする基隆市林右昌市長(右)と中村博生市長

基隆市とのこれから

経済：地元農林水産品の台湾輸出

今回で5回目の開催となる「くまもと県南フードバレーIN台湾基隆市」では、市内企業も参加し、八代市産の農林水産品を販売するとともに現地バイヤーとの商談を行うなど、販路拡大に努めており、今後もさらなる輸出拡大を目指します。

スポーツ：バドミントンを通じた交流

基隆市との協定を締結したことをきっかけに、市内の高校生と台湾の高校生とのバドミントン交流が行われました。今後もスポーツを通じた交流を続けていき各種競技における人財育成とスポーツ分野における交流人口の拡大につなげます。

教育・文化：基隆市への修学旅行

交流協定締結後、市内の県立高校が修学旅行で基隆市を訪れ、基隆市政府の協力のもと現地の高校生との交流を深め地域の文化に触れました。市内学生の国際理解の向上を図るため、今後も基隆市との学生間交流を推進していきます。

観光：クルーズ船寄港数の増加

令和2年は4月1日の八代港クルーズ拠点「くまもんポート八代」の供用開始により基隆港発着のクルーズ船寄港数が増加し、台湾からの観光客増加が見込まれます。クルーズ客船の寄港増加に伴う、経済効果を地元経済へ結びつけるため、本市は今後も国、県と連携し八代港を生かした取り組みを進め、本市の発展につなげていきます。



▲くまもと県南フードバレーフェアIN台湾基隆市



▲台湾の高校生とのバドミントン交流

広がる基隆市との輪

基隆市と八代市

問合せ 国際課 ☎33-6846

	基隆市	八代市
人口	369,055人	126,667人
面積	132.75km ²	681.36km ²
年平均気温	22.5℃	17.5℃
年間降水量	3,755mm	1,924.5mm

(令和元年12月31日現在)

基隆市は台湾北部に位置し、日本に最も近い立地のため、日本との貿易港としても繁栄してきました。また、台湾の他の都市に比べ雨の日が多いことから、「雨港」・「雨都」とも呼ばれています。



港湾都市という共通の性格を持つ本市と台湾基隆市は、平成27年8月「八代港・基隆港友好交流確認書」を調印するなど長年にわたり交流を深め、平成30年4月、経済、文化、スポーツ、観光、教育などの各分野での交流を促進しながら、お互いの発展を目指すため友好交流協定を締結しました。

基隆港のコンテナ貨物取扱量は、九州の港ではトップの取扱量を誇る博多港の約1.4倍、八代港の約70倍、クルーズ船の寄港数は、国内トップの博多港の約1.2倍、八代港の過去最高寄港数だった2018年の65隻の約5倍。基隆港は八代港の目指す港といえます。

